SOMPO－産総研RDP連携研究ラボ介護分野テーマ3

転倒リスク評価方法の開発

主観と客観の融合による計測/評価する方法を構築

【目標】

転倒リスク発生確率・影響を抑制し、高齢者QOL低下の抑制、事故対応負担の軽減に繋げる

【方法】

1，心身機能に基づく客観的な転倒リスク評価ロジック開発

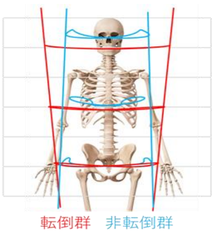
2，蓄積されたデータに基づく転倒リスク因子解明

1，心身機能に基づく客観的な転倒リスク評価ロジック開発

①体力測定・体操教室時の映像解析による転倒予測

※特許出願中

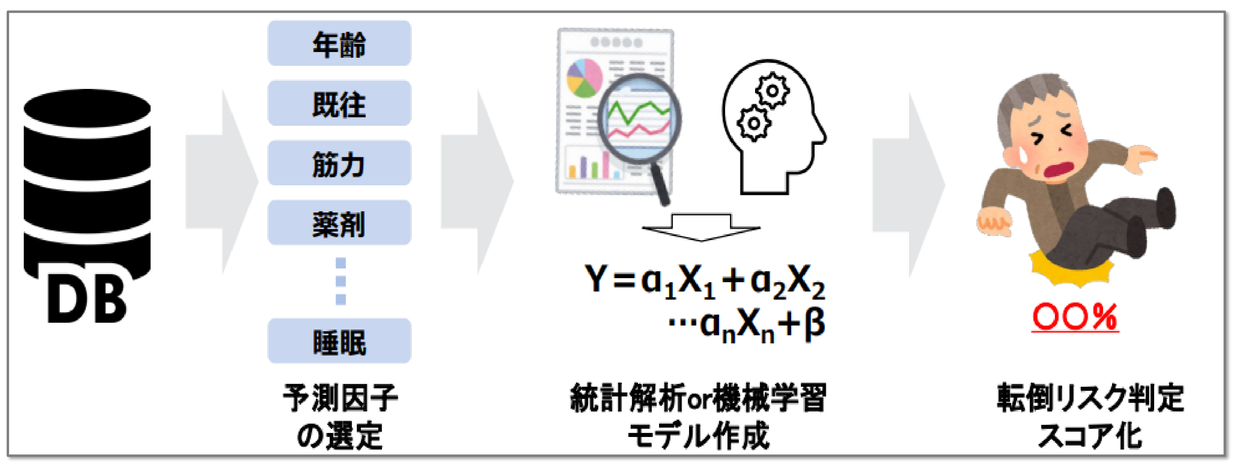
②日常生活時の映像解析による転倒予測



転倒経験者の
心身機能特徴

骨格データ取得→特徴量算出

2，蓄積されたデータに基づく転倒リスク因子解明



ＳＯＭＰＯケアの介護施設ご入居者のアセスメントデータ（介護・医療情報、心身機能評価）、介護記録各データ（事故データ含む）、睡眠データ等を解析し、転倒リスク予測に繋げる

3，期待効果

①適切なリスク把握や常時計測

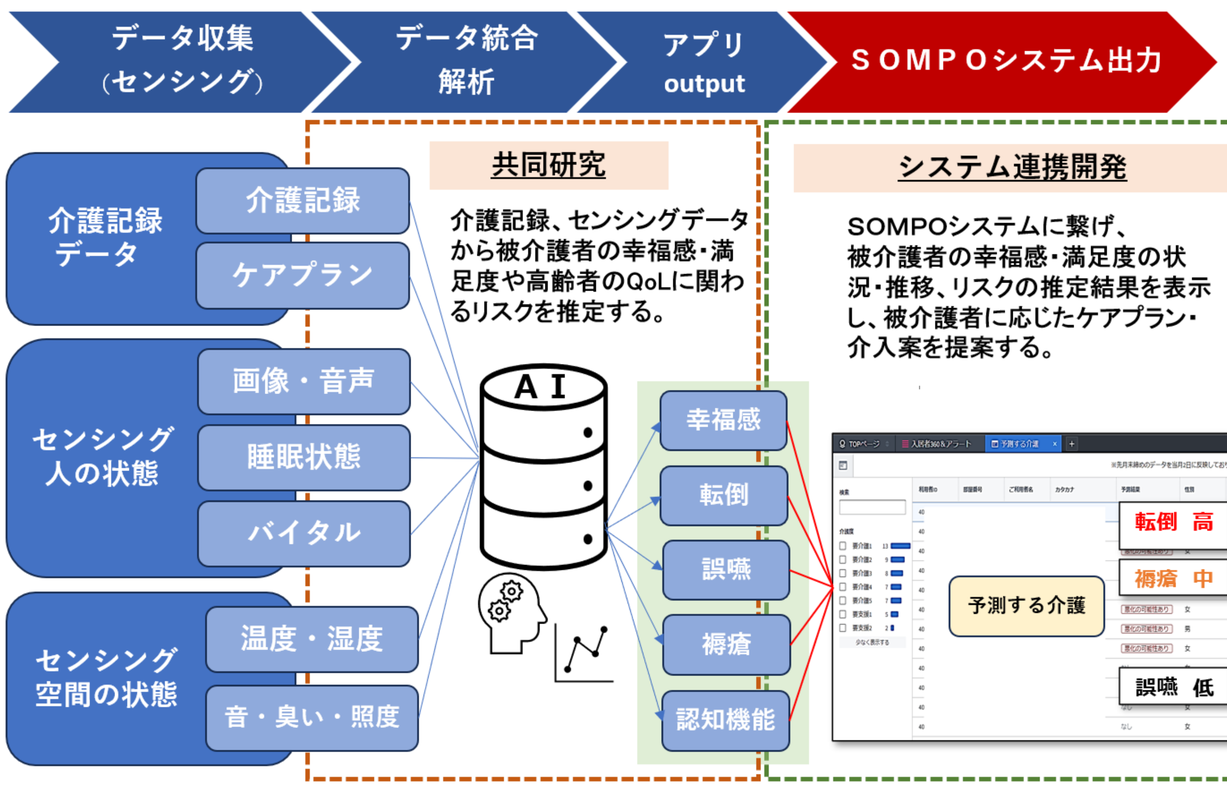
人間の「馴化」による判断ミスを回避

②介入の結果によるリスク評価影響をタイムリーに把握

③援助の優先度選定（必要援助の明確化・適正化）

上記①～③により、リスク発生確率、ハザード発生影響（ダメージ）を抑制

- ●ADL低下抑制、生活の質の維持・向上
- ●入院抑制（転倒による入院を抑制）、医療費削減
- ●業務負荷軽減、生産性向上



SOMPO

ＳＯＭＰＯ-産総研ＲＤＰ連携研究ラボ

連絡先：harc-liaison-ml@aist.go.jp

産総研
ともに挑む。つぎを創る。